

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人河原学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計			
人間環境学部	心理学科	夜・通信	0	5	8	13	13		
	環境科学科	夜・通信			9	14	13		
心理学部	心理学科	夜・通信		5	8	13	13		
	犯罪心理学科	夜・通信			8	13	13		
環境科学部	フィールド生態学科	夜・通信		5	8	13	13		
	環境データサイエンス学科	夜・通信			8	13	13		
看護学部	看護学科（旧）	夜・通信		0	0	14	14	13	
	看護学科（新）	夜・通信				13	13	13	
松山看護学部	看護学科（旧）	夜・通信		0	0	13	13	13	
	看護学科（新）	夜・通信				13	13	13	
総合心理学部	総合心理学科	夜・通信		0	0	14	14	13	
	総合犯罪心理学科	夜・通信				14	14	13	
総合環境科学部	フィールド自然学科	夜・通信		0	0	16	16	13	
	環境情報学科	夜・通信				22	22	13	
(備考) 総合環境科学部においては、対象となる科目が開講年次となっていないため、設置申請時の授業計画を添付いたします。									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公開

(https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info.html)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人河原学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公開 (https://www.kawahara-gakuen.jp/pdf/yakuin2026.pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	備考欄 ※1	多様な分野における経験や有意義な知見を本法人の教育機関の運営に活かし、自律的な運営を促進する
非常勤	愛媛県監査委員	備考欄 ※1	多様な分野における経験や有意義な知見を本法人の教育機関の運営に活かし、自律的な運営を促進する
(備考) ※1 任期：令和7年5月26日から選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人河原学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全学の教学を統括する教学マネジメント委員会において、シラバスの様式を検討し、コマシラバス(各コマ毎に詳細化されたシラバス)として統一の様式を整えたうえで作成している。また、コマシラバス作成上の注意点を専任教員に対し伝えるため、説明会を実施している。非常勤講師には、留意点を記載した作成要領を送付し作成を依頼している。</p> <p>さらに、提出されたシラバスはカリキュラム責任者等、第三者により記載内容を確認するとともに、教学マネジメント委員会においても随時、記載内容の検証を行っている。</p> <p>なお、今年度における主な記載項目は、下記のとおりである。</p> <p>区分、科目コード、学年・期、科目名、単位数、授業形態、必修・選択、学習時間、前提とする科目、展開科目、関連資格、担当教員名、ディプロマ・ポリシーとの関係、カリキュラム・ポリシーとの関係、カリキュラム全体の中でのこの科目の位置づけ、科目の目的、到達目標、科目の概要、科目のキーワード、授業の展開方法、オフィスアワー、履修判定指標、評価方法、教科書、参考文献、実験・実習・教材費</p> <p>また上記に加え、コマ毎に以下の記載項目がある。</p> <p>主題、科目の中での位置付け、コマ主題細目、細目レベル、キーワード、コマの展開方法、復習・予習課題、教材・教具</p> <p>授業計画(シラバス)の公表時期は、4月開講時に行い、履修登録時に受講を希望する学生が確認できるよう、配慮している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページまたはLMSにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/campus/board.html)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>単位の認定については、試験規程を定めるとともに、「受験資格」において出席時数を明確にしている他、学部学科毎に教育課程および履修方法に関する規程により成績評価基準を定めており、学生に配布する「履修の手引き」又は「学生便覧」に掲載している。また、コマシラバスにより“履修判定指標”が授業毎に定められており、その授業で修得すべき具体的内容を履修登録時から学生に対し、明確に示している。</p> <p>なお、コマシラバスについてはカリキュラム責任者等による第三者チェックが行われており、“履修判定指標”が定期試験などの評価対象となる内容と一致しているかどうかを学生向けアンケート調査により確認し、各学部や担当教員に対し、結果をフィードバックすることで改善を図っている。またLMSの活用により毎回授業の終了時に小テストを実施し、その日の振り返りを行っている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

評価点	合否等	評語	GP	評価基準
100～90点	合格	S	4.0	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
89～80点		A	3.0	学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70点		B	2.0	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)
69～60点		C	1.0	学習目標の最低限は満たしている (Pass)
59点以下	不合格	D	0	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
試験欠席		E	0	試験付受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄		F	0	出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	認定	N	-	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

GPA= $\frac{(4.0 \times S \text{の単位数}) + (3.0 \times A \text{の単位数}) + (2.0 \times B \text{の単位数}) + (1.0 \times C \text{の単位数})}{\text{履修登録単位数の合計}}$

客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info.html)
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取り組みの概要)

【心理学部】

人間環境学を基盤とした広い視野と柔軟な思考力を有し、さらに、心理学の専門分野についての深い理解力と実践力を備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。具体的には、以下の3つの能力を以って卒業要件とする。

1. 現代社会における諸問題を心理学的な観点から把握し、修得した専門的知識と実践的能力によって主体的に課題解決にあたることができる。
2. 人の心の働きについて科学的に分析する力と、人の心の多様性および個別性を理解する力を獲得し、それらの力を問題解決への新しい提言に活用することができる。
3. 自分自身と他者との相互の関係に関心を持ち、地域社会に貢献する人材として自身の役割を認識しつつ組織的に行動することができる。

【環境科学部】

人間環境学についての幅広い教養を身につけ、環境科学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる者に学位を授与する。具体的には、以下の三つの能力を以って卒業要件とする。

1. 環境問題全般に関する幅広い視野と、自然や社会、情報の専門的知識を持ち、持続可能な社会の構築に貢献する力を有する。
2. 自然環境や国際社会の課題を常に意識し、社会で求められる情報リテラシー、コミュニケーション力を備え、積極的に課題解決に取り組むことができる。
3. フィールドから情報を収集し、修得したデータ解析技術を用いて、新しい価値を創造できる。

<フィールド生態学科>

フィールド生態学科は、環境科学部のディプロマ・ポリシーおよび本学科の人材養成像「動物・植物・生態系機能に関する専門的知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材」に基づき、卒業要件を満たし、以下の能力を備えた学生に対して学位を授与する。

1. 生態学に関する幅広い基礎知識を有しており、動物、植物、生態系機能のいずれかに関する生態学的な専門的知識を有している。
2. 人間社会や環境情報に関する幅広い基礎知識を有する。
3. 自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案ができる。
4. フィールドにおける自然環境調査を、計画し実行する能力を有している。

<環境データサイエンス学科>

環境データサイエンス学科では、環境情報・社会環境に関する基礎知識と、ICT (Information and Communication Technology) や社会活動に関する専門知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力により社会の発展と環境保全のバランスを考慮した提案と行動ができる人材を育成する。中核となる環境データサイエンス科目では、環境情報、社会環境の2領域の科目を用意し、環境データサイエンスの体系的な学修に必要な共通必修科目と、専攻する領域の専門科目を修得させる。特に、国内外における少人数制フィールド調査実習や、プロジェクトベースのデータ解析実習において、実践的かつ専門的なスキルを修得させる。

環境データサイエンス学科では、先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけた人材を養成するための教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のように設定する。

1. 環境学・情報学・社会科学に関する幅広い基礎知識と、環境情報と社会環境のいずれかに関する専門知識を身につけるための、環境データサイエンス科目

を配置する。

2. 国内外の文化の理解や地域社会との交流により、自ら課題を発見する能力を養うための、少人数制による社会フィールド調査やデータ解析演習などの実践的な実習科目を多数配置する。
3. 多様化する環境問題や地域社会の諸問題に関心を持ち、自らデータを収集し分析する情報技術を修得し、環境と調和した人間社会を創造できる実践的な力を身につけるため、環境データサイエンス共通科目を配置する。
4. 動物・植物・生態系機能に関する基礎知識を身につけるため、フィールド生態科目を配置する。
5. 異分野を含めた多角的な視野と柔軟な思考力、コミュニケーション力、課題解決のための積極的な行動力を養うための、学部共通科目を配置する。

【人間環境学部】

人間環境学についての幅広い教養を身につけ、人間環境学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる者に学位を授与する。具体的には、以下の3つの能力を以って卒業要件としている。

1. 個人・社会・自然が直面する課題に対して専門的な理解を深めると共に、学際的な柔軟性を有し、実践的な能力を有すること。
2. グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献できる力を有すること。
3. 企業・地域社会などのあらゆるコミュニティに寄与する組織的な活動能力を有すること。

【看護学部】

人間環境学の探求に基づく〈人間〉と〈環境〉、および人間と環境との〈関係〉の深い理解の上に、豊かな人間性を培い、人びとの多様な健康ニーズに応えるため科学的根拠に基づいた質の高い看護実践を創造できる自立した人材を育成することが看護学部の教育理念としています。そのために教育目標に掲げた「専門的なコミュニケーション能力」「アセスメント能力」「判断力」「創造力」「実践力」「自己研鑽能力」が学修成果として備えた者に卒業を認定し、学位を授与します。

具体的には、定められた128単位以上を修得し、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与します。

1. 看護実践に必要な専門的なコミュニケーション能力とヘルスアセスメント能力
2. 人びとの健康と環境について科学的根拠に基づき判断することができる能力
3. 多様な看護実践の場において、看護を創造し実践することができる能力
4. 保健医療福祉の連携においてリーダーシップを発揮し、その発展に貢献できる能力
5. 看護を創造し実践するために必要な専門的知識を身につけ研鑽し続ける能力

【松山看護学部】

人間の尊厳に基づいた豊かな人間性を培い、対象となる人々が、健康に生活し生きることがを支援する看護、及び地域社会がより健康に発展するために貢献する看護を教育理念に掲げ、そのために教育目標として「豊かな人間性と倫理観」「ヒューマンケアの実践能力」「専門職業人としての自立性」「多職種連携」「社会貢献」「グローバルな視野と多様性」「国際社会貢献」が学修成果として身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。具体的には、定められた130単位以上を修得し、以下のことを身につけた学生に卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護専門職者として、生命の尊厳や人間の尊重をふまえた高い倫理感を身につけ、他者に寄り添うことができる。
2. 看護専門職者として、幅広い知識を有し豊かな人間性を備え、自立し専門的知

識・技術や援助的人間関係能力を身につけることができる。

3. 看護専門職者として、科学的・論理的思考に基づく観察力・判断力・問題解決能力を身につけることができる。
4. 看護専門職者として他職種連携ができ、地域社会の発展に貢献できる能力を身につけることができる。
5. 看護専門職者として探究心をもち、社会の変化にともなう看護の発展に寄与できる継続的自己学習能力を身につけることができる。
6. 看護専門職者としてグローバルな視野をもち、国際社会の看護や保健医療福祉に貢献できる基礎的な能力を身につけることができる

【総合心理学部】

＜総合心理学科＞

人間環境学を基盤として総合的な心理学の知識を備え、さらに、選択した専門分野に関するより深い知識と方法論を備えた者に対して卒業を認定し学位を授与します。具体的には、以下の姿勢と技術を以って卒業要件としています。

1. 人間は地球環境を構成する一生物であるという自覚と理解に基づいて、人間の心について考える姿勢を有し、持続可能な社会へ向けた貢献ができること。
2. 心理学に関する幅広い知識を有し、その考察を深める意欲を有し、社会の中で自らの知識を他者に伝える技術を有すること。
3. 心理学の中に自らが選択したより深い理解と知識のある分野を有し、そのデータ収集、解析、そして論理的解釈に関する方法論を身に付け、社会と自身のためにこれを活用する姿勢と技術を有すること。

＜総合犯罪心理学科＞

人間環境学を基盤として、総合的な心理学の知識を備え、さらに、犯罪心理学分野に関するより広い教養と深い知識と方法論を備えた者に対して卒業を認定し、学位を授与します。

具体的には、以下の四つの姿勢と技術を以って卒業要件としています。

1. 人間は地球環境を構成する一生物であるという自覚と理解に基づいて、人間の心について考える姿勢を有し、持続可能性社会へ向けた貢献ができること。
2. 心理学および犯罪心理学に関する幅広い知識を有し、その考察を深める意欲を有し、社会の中で自らの知見を他者に伝える技術を有すること。
3. 心理学の視点から、規模・スケール軸(規模:個人内・個人間・社会・国家、スケール:現実空間・サイバー空間)と時間軸(罪の起源や発生・犯罪予防・犯罪の発生や捜査・支援・更生)の2軸から総合的に犯罪を考察し、社会の安心・安全を目指す問題解決にその知見を活用できること。
4. 心理学及び犯罪心理学の中で自らが選択した領域のより深い理解と知識を有し、そのデータ収集、解析、そして論理的解釈に関する方法論を身に付け、社会と自身のために広くこれを活用する姿勢と技術を有すること。

【総合環境学部】

＜フィールド自然学科＞

フィールド自然学科は、総合環境学部のディプロマ・ポリシーおよび本学科の人材養成像「フィールドでの学びを通じて、多様な動物や自然と、人間との関わりに関する専門知識を有し、SDGs (Sustainable Development Goals) の達成に必須である自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材」に基づき、卒業要件を満たし、以下の能力を備えた学生に対して学位を授与する。

1. 自然に関する幅広い基礎知識を有しており、陸域・水域の動物あるいは農学・水産学・微生物学のいずれかに関する専門的知識を有する。

2. 人間社会やデータ解析に関する幅広い基礎知識を有する。
3. 自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案ができる。
4. フィールドにおける自然環境調査を計画し実行する能力を有している。

<環境情報学科>

環境情報学科は、総合環境学部のディプロマ・ポリシーおよび、「SDGs (Sustainable Development Goals)、および持続可能社会 (sustainable society) の理念にもとづき、人間を取り囲む自然環境と、デジタル技術に支えられた社会環境との関係を総合的に理解できるとともに、新たなソフトウェアの提案・開発および環境データの分析を通じて、人間と環境とをめぐる諸問題に積極的に関与し、その解決に貢献できる人材」という本学科の人材養成像に基づき、卒業要件を満たすことで以下の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 産業発展と環境保護について多角的な視野を有するとともに、両者の調和に向けた提言を行い、社会や組織を啓発することができる。
2. 事物や事象をデータにもとづいて合理的に捉え、評価できるとともに、その知見を社会発展や産業振興に応用することができる。
3. 実社会のニーズを包括的に捉え、多くの利用者に役立つソフトウェア製品を構想、発案し、社会生活の改善に貢献することができる。
4. 環境保護や労働負荷に配慮しながらソフトウェア製品を開発する専門知識を有し、持続可能社会の実現に貢献することができる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページにて公開
(<https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html>)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人河原学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kawahara-akuen.jp/finance.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kawahara-akuen.jp/finance.html
財産目録	https://www.kawahara-akuen.jp/finance.html
事業報告書	https://www.kawahara-akuen.jp/finance.html
監事による監査報告(書)	https://www.kawahara-akuen.jp/finance.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/self-evaluation.html)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 公表方法: ①本学 HP に公表 https://www.uhe.ac.jp/guide/self-evaluation.html ②日本高等教育評価機構 HP による結果の掲載 https://www.jiheer.or.jp/search/result_report.php?fyear=2022
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 心理学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))
（概要）建学の精神である人間環境学の探求を教育の基盤とし、心理学に対する地域社会からの期待や要請に応えるため、人間社会に存在する多岐にわたる心理的課題に対応できる人材を養成することで、地域社会に貢献することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))
（概要）人間環境学を基盤とした広い視野と柔軟な思考力を有し、さらに、心理学の専門分野についての深い理解力と実践力を備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。具体的には、以下の 3 つの能力を以って卒業要件とする。 (1) 現代社会における諸問題を心理学的な観点から把握し、修得した専門的知識と実践的能力によって主体的に課題解決にあたることのできる (2) 人の心の働きについて科学的に分析する力と、人の心の多様性および、個別性を理解する力を獲得し、それらの力を問題解決への新しい提言に活用することのできる (3) 自分自身と他者との相互の関係に関心を持ち、地域社会に貢献する人材として自身の役割を認識しつつ組織的に行動することのできる
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))
（概要）心の働きについて科学的に理解し、かつ、心の多様性と個別性を尊重できる力を有し、その力を活用して複雑化した現代社会の課題、および多様化している心の問題に対応する人材を育成する。 (1) 心理学科 心理学の基盤となる心の仕組み・働きに関する基礎知識とその研究方法、心に対するアプローチ方法を身につけた上で、心理学の知見から多面的に現代社会の抱える課題を冷静に分析し、適切な課題の解決、および支援を実践できる人材を育成する。 中核となる心理学の科目として、臨床・障害領域、子ども・発達領域、対人・社会領域の 3 つの専門領域科目とその隣接領域科目を配置しており、心理学の学術的基盤である心理学部共通科目、実践・研究スキル科目を修得することで、心理学の幅広い知識、事象を科学的かつ多角的に分析する力、心を支援する基本的態度と技術を身につける。 (2) 犯罪心理学科 犯罪心理学科では、心理学および、犯罪心理学に関する専門的知識を有し、多角的な視点に立脚した思考力と実践力をもって、多様化した現代社会が抱える現実的な問題の分析・解決に貢献できる人材を育成する。全学共通科目と学部共通科目、他学科科目を配置し、豊かな教養と幅広い視野を養うとともに、中核となる犯罪心理学科の科目として犯罪心理学基盤科目と犯罪心理学発展科目を用意し、犯罪心理学発展科目である法心理学、犯罪科学、犯罪臨床、捜査・防犯心理学の 4 領域の専門科目について段階的かつ体系的に修得することで、高い専門的知識と実践的な技能を身につける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))

<p>(概要) 人間と社会の関係に関心を持ち、自身の創造性と主体性を発揮しながら、心理学の知識を実社会で活かすことによって社会貢献する意欲を持つ人を求めます。心理学および、犯罪心理学の入学受入れに関する方針は次のとおりです。</p> <p>(1)心理学科 心理学部の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づいて、心理学の専門分野を実践的に学び、現代社会の諸問題について主体的に取り組み社会貢献できる人材を育成します。また、人の心を客観的に分析する科学的態度、人の心の多様性や個性を追究する意欲、自分自身と他者との関係性への興味関心を持ち、心理学の学びを社会に生かすよう絶えざる努力をし続ける人材を求めます。心理学科での教育を受けるにあたっては、人の心を科学的に明らかにし、心の多様性や人間関係を理解する力が必要となるため、数学、国語、社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識と、学びに必要な論理的思考力・判断力・行動力・倫理性を有し、他者と協調・協働していくためのコミュニケーション能力を備えた学生を、多様な選抜制度により受け入れます。</p> <p>(2)犯罪心理学科 犯罪心理学科では、人間の心と行動や現代社会が抱える様々な問題に強い関心を持つとともに、多様な人間と協働しつつ、人間の心と社会に対して深い理解を得たいという強い意思があることを前提として、心理学と犯罪心理学の専門的知識と実践的な技能・能力をもって積極的に社会に貢献する人材を求めます。犯罪心理学科での教育を受けるにあたっては、専門的知識の修得に必要な知識・技能等、高等学校の教育内容にもとづく基礎学力、研究や実践的な技能・能力の修得に必要な論理的思考力、行動力および、倫理性、共感性を身につけている学生を多様な選抜制度により受け入れます。</p> <p>①人間の心と行動、および現代社会が抱える様々な問題に強い関心を持つ人 ②多様化した現代社会が抱える諸処の問題に対し、その分析や解決に役立てるために心理学および、犯罪心理学に関する専門的知識と技能を身につける意欲を持つ人 ③数学、国語、社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎的な学力を有し、学びに必要な論理的思考力、行動力、および、倫理性、共感性を備えた人</p>
--

<p>学部等名 環境科学部</p> <p>教育研究上の目的(公表方法:ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p> <p>(概要) 建学の精神である人間環境学の探求を教育の基盤とし、自然環境を対象として予測が困難である状況下における現場対応力や、調査・観察測定結果に基づく状況把握力・改善案提示力により、環境保全に配慮した持続可能な社会の構築に向けた提案と実践を行い、地域社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法:ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p> <p>(概要) 人間環境学についての幅広い教養を身につけ、環境科学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる者に学位を授与する。具体的には、以下の三つの能力を以って卒業要件とする。</p> <p>(1)環境問題全般に関する幅広い視野と、自然や社会、情報の専門的な知識を持ち、持続可能な社会の構築に貢献する力を有する (2)自然環境や国際社会の課題を常に意識し、社会で求められる情報リテラシー、コミュニケーション力を備え、積極的に課題解決に取り組むことができる (3)フィールドから情報を収集し、修得したデータ解析技術を用いて新しい価値を創造できる</p> <p>①フィールド生態学科 フィールド生態学科は、環境科学部のディプロマ・ポリシー、および本学科の人材養成像「動物・植物・生態系機能に関する専門的知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材」に基づき、卒業要件を満たし、以下の能力を備えた学生に対して学位を授与する。</p>

- i. 生態学に関する幅広い基礎知識を有しており、動物、植物、生態系機能のいずれかに関する生態学的な専門的知識を有している
- ii. 人間社会や環境情報に関する幅広い基礎知識を有する
- iii. 自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案ができる
- iv. フィールドにおける自然環境調査を計画し、実行する能力を有している

②環境データサイエンス学科

環境データサイエンス学科は、環境科学部のディプロマ・ポリシー、および本学科の人材養成像「社会・データサイエンスに関する専門知識と、社会や情報、環境全般に関する基礎知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と鋭

い洞察力、柔軟な思考力によって、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる」に基づき、卒業要件を満たし、以下の能力を備えた学生に対して学位を授与する

- i. 環境科学を基盤とした、社会科学もしくは、データサイエンス学の専門的知識を有している。
- ii. 人間社会や自然環境から得られる情報を収集し、適切に分析する能力を培い、新しい価値を創造できる。
- iii. 環境問題を含む自然・社会・情報環境における国内外の課題に目を配り、多角的な視点と柔軟な思考力、コミュニケーション力を備え、積極的な行動力により、課題解決に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公開
(https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))

（概要）本学の建学の精神である『人間環境学の探求』に則り、人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材の育成といった本学の教育の理念を基盤として、環境科学部の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を、『自然環境と社会環境を総合的にとらえる学問として「環境科学」を位置づけ、その基盤のもと、社会の経済的枠組みや自然科学的視点を理解する「環境科学」の見地から、環境問題を、自然、社会、情報の側面からとらえ、課題を深く理解し、分析し、SDGs（Sustainable Development Goals）の達成に向けて行動できる人材を育成する』と設定する。

(1)フィールド生態学科

フィールド生態学科では、動物・植物・生態系機能に関する専門知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成する。中核となるフィールド生態科目には、陸生動物生態、水生動物生態、植物生態の3領域に、生態系機能評価をあわせた4領域の科目を用意し、フィールド生態学共通の学術基盤と解析手法を得るのに必要な科目と、専攻する領域の科目を修得させることで、自然環境全体を見通すことができる教養と、自然環境から必要なデータを得て解析する技術と、特定領域について特化した専門知識を身に付けさせる。

フィールド生態学科では、先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけた人材を養成するための教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のように設定する。

- ①生態学に関する幅広い基礎知識と動物・植物・生態系機能のいずれかに関する専門知識を身につけるため、フィールド生態科目を配置する
- ②社会や情報に関する基礎知識を身につけるため、環境データサイエンス科目を配置する
- ③柔軟な思考力を身につけ、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案ができる能力を身につけるため、諸課題を総合的にとらえ、社会で活躍するための基礎力を修得する学部共通科目を配置する
- ④広い視野をもち、異分野に関する知識を理解するため、学部共通科目として複数分野からなる科目群を配置する。

(2)環境データサイエンス学科

環境データサイエンス学科では、環境情報・社会環境に関する基礎知識と、ICT（Information and Communication Technology）や社会活動に関する専門知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力により社会の発展と環境保全のバランスを考慮した提案と行動ができる人材を育成する。中核となる環境データサイエンス科目では、環境情報、社会環境の2領域の科目を用意し、環境データサイエンスの体系的な学修に必要な共通必修科目と、専攻する領域の専門科目を修得させる。特に、国内外における少人数制フィールド調査実習や、プロジェクトベースのデータ解析実習において、実践的かつ専門的なスキルを修得させる。

環境データサイエンス学科では、先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけた人材を養成するための教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を以下のように設定する。

- ①環境学・情報学・社会科学に関する幅広い基礎知識と、環境情報と社会環境のいずれかに関する専門知識を身につけるための、環境データサイエンス科目を配置する
- ②国内外の文化の理解や地域社会との交流により、自ら課題を発見する能力を養うための、少人数制による社会フィールド調査やデータ解析演習などの実践的な実習科目を多数配置する
- ③多様化する環境問題や地域社会の諸問題に関心を持ち、自らデータを収集し分析する情報技術を修得し、環境と調和した人間社会を創造できる実践的な力を身につけるため、環境データサイエンス共通科目を配置する
- ④動物・植物・生態系機能に関する基礎知識を身につけるため、フィールド生態科目を配置する
- ⑤異分野を含めた多角的な視野と柔軟な思考力、コミュニケーション力、課題解決のための積極的な行動力を養うための、学部共通科目を配置する

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公開
(https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html)

（概要）人間環境大学環境科学部は、理系から文系までの幅広い教養を身につけ、環境科学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる人材を輩出する学部である。

人間環境大学は、人間環境学を理念とし、人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的としている。環境科学部では、自然、社会、情報、およびそれらの関係についての高度な知識や技術を求め、創造的に学問を深めることができ、主体的に物事に取り組む人を求める。

環境科学部にはフィールド生態学科、および環境データサイエンス学科があり、各学科の入学者の受入れに関する方針は以下に示す。

(1)フィールド生態学科

人間環境大学環境科学部の学位授与の方針に基づいて、環境科学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる人を養成する。フィールド生態学科では、生物やそれを取り巻く非生物的要素により構成される自然環境と、その保全に配慮した社会に関心があり、フィールド調査で培った環境保全に関する知識と技能を、自然共生社会の実現に役立てる意欲を持つ人を求めます。フィールド生態学科での教育を受けるにあたっては、生態系や環境問題を理解する力が必要となるため、生物学を始めとする高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性をもち、多様な人々と協働して学ぶ意欲を備えた人を、多様な選抜制度により受け入れます。

- ①生物やそれを取り巻く非生物的要素により構成される自然環境と、その保全に配慮した社会に関心がある人
- ②フィールド調査で培った環境保全に関する知識と技能を、自然共生社会の実現に役立てる意欲を持つ人
- ③生物学を始めとする高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思

<p>考力・判断力・表現力・行動力・倫理性をもち、多様な人々と協働して学ぶ意欲を備えた人</p> <p>(2)環境データサイエンス学科</p> <p>環境データサイエンス学科では、自然科学分野、情報学分野だけでなく、社会科学分野なども含めた、文理両分野に関して、主体性を持って多様な人々と協働して学び続ける意欲があり、また、環境や国際社会問題に深い興味を持ち、ICT（Information and Communication Technology）活用によって積極的に社会貢献する人材を求めます。環境データサイエンス学科での教育を受けるにあたっては、情報や社会活動を理解する力が必要なため、情報や数学、もしくは社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性を備えた学生を、多様な選抜制度により受け入れます</p> <p>①自然科学分野だけでなく、社会科学分野なども含めた、文理両方に関して、主体性を持って多様な人々と協働して学び続ける意欲がある人</p> <p>②環境や国際社会問題に深い興味を持ち、ICT（Information and Communication Technology）活用によって積極的に社会貢献する人</p> <p>③情報や数学、もしくは社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性を備えた人</p>
--

<p>学部等名 看護学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p>
<p>（概要）建学の精神である人間環境学の探求に基づく「〈人間〉と〈環境〉および人間と環境との〈関係〉の深い理解に基づいた質の高い看護実践を創造できる自立した人材の育成」を目指し、豊かな人間性を培いつつ、人びとの多様かつ複雑な健康ニーズに応えるため、科学的根拠に基づいた質の高い看護実践を創造できる自立した看護職者を育成する。あわせて、常に学び続ける姿勢を持つ看護の実践者、保健師、養護教諭、助産師、教育者、および研究者を育成し、社会に貢献することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p>
<p>（概要）人間環境学の探求に基づく〈人間〉と〈環境〉、および人間と環境との〈関係〉の深い理解の上に、豊かな人間性を培い、人びとの多様な健康ニーズに応えるため科学的根拠に基づいた質の高い看護実践を創造できる自立した人材を育成することを看護学部の教育理念としている。そのために教育目標に掲げた「専門的なコミュニケーション能力」「アセスメント能力」「判断力」「創造力」「実践力」「自己研鑽能力」が学修成果として備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>具体的には、定められた128単位以上を修得し、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。</p> <p>(1)看護実践に必要な専門的なコミュニケーション能力とヘルスアセスメント能力 (2)人びとの健康と環境について、科学的根拠に基づき、判断することができる能力 (3)多様な看護実践の場において、看護を創造し、実践することができる能力 (4)保健医療福祉の連携において、リーダーシップを発揮し、その発展に貢献能力 (5)看護を創造し、実践するために必要な専門的知識を身につけ、研鑽し続ける能力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p>
<p>（概要）看護学部のカリキュラムは、前述した教育理念、教育目的・教育目標に則り、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）達成のために、以下のように編成する。</p> <p>(1)基礎科目、専門基礎科目、および専門科目の3科目群からカリキュラムを編成する (2)基礎科目では、深い人間理解、および豊かな人間性を培うための科目を配置する (3)人びとの多様かつ複雑な健康ニーズの実践的な把握に必要な専門的コミュニケーション能力とヘルスアセスメント能力を実践的に培うために、模擬患者・仮想空間などのシミュレーションを取り入れた科目を配当する</p>

<p>(4) 科学的根拠に基づいた質の高い看護実践の修得を目指すために、専門基礎科目の知識と専門科目を関連付けて、「知る」「身につける」「使ってみる」の3層を分離させることなく、相互に融合させ、反復しつつ進行する螺旋状の学習形態を配置する</p> <p>(5) 多様な看護活動の場において、看護を創造し実践する応用的な能力を培うために、4つの選択強化プログラム（地域・在宅療養者と家族の支援、こどもと家族の看護、がん看護、認知症高齢者と家族の看護）を配当する</p> <p>(6) グローバルな視点で看護を実践するために、外国語や国際看護に関する科目を配当する</p> <p>(7) 保健医療福祉の連携と発展に貢献する能力を養うために、多職種と連携する能力、その連携のリーダーシップを発揮するための基礎的能力を養う科目を配当する</p> <p>(8) 全ての科目において、国家資格に必要な専門的知識を1年次から段階的かつ継続的に学修できるよう設定する。</p> <p>看護学部の特徴として、看護師基本コースのほかに、4つの選択強化プログラム（地域・在宅療養者と家族の支援、こどもと家族の看護、がん看護、認知症高齢者と家族の看護）、保健師コース（選択）、および養護教諭コースを配置する。</p> <p>また、人びとの多様な健康ニーズに応えるため、科学的根拠に基づいた質の高い看護実践をするために、必要な基礎的能力の強化のために、人体の構造、機能、病態生理、疾病、および看護をバラバラで教授するのではなく、リンクさせて教授する「看護のための形態機能と疾病」などの科目を設定し、螺旋状の学習形態を意識して配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p> <p>（概要）看護学部は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に則り、人間への深い理解を有し、質の高い看護実践を創造し自立できる看護職者の育成を目指し、次の各号に掲げる知識・技能や能力、目的意識、意欲を備えた人を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人びとの多様な価値観を尊重し、思いやることができる人 (2) 他者の考えを理解し、また、自己の考えを適切に伝えるためのコミュニケーション能力の基礎的内容（聞く・話す・読む・書く）を身につけている人 (3) 看護を科学的に実践するための基盤となる自然科学の知識、論理的な思考の基礎を持っている人 (4) 人びとの健康を支援する看護実践に熱意を持ち、継続して主体的に学修に取り組むことができる人 <p>このような学生を選抜するために、多様な入試方法において、総合的に判定する。</p>

<p>学部等名 松山看護学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p> <p>（概要）教育理念に掲げる「人間の尊厳に基づいた豊かな人間性を培い、対象となる人々が、健康に生活し生きていることを支援する看護、および地域社会がより健康に発展するために貢献する看護」を目指し、この実現のために、看護の視点で高いヒューマンケアの実践能力を備え、基礎的な指導・調整能力を有し、専門的知識・技術をもって、地域社会に貢献できる看護職者の育成を目指すことを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p> <p>（概要）人間の尊厳に基づいた豊かな人間性を培い、対象となる人々が、健康に生活し生きていることを支援する看護、および地域社会が、より健康に発展するために貢献する看護を教育理念に掲げ、そのために教育目標として、「豊かな人間性と倫理観」「ヒューマンケアの実践能力」「専門職業人としての自立性」「多職種連携」「社会貢献」「グローバルな視野と多様性」「国際社会貢献」が学修成果として身についた者に卒業を認定し、学位を授与する。具体的には、定められた130単位以上を修得し、以下のことを身につけた学生に卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。</p> <p>①看護専門職者として、生命の尊厳や人間の尊重をふまえた高い倫理感を身につけ、他者</p>

<p>に寄り添うことができる</p> <p>②看護専門職者として、幅広い知識を有し豊かな人間性を備え、自立し専門的知識・技術や援助的人間関係能力を身につけることができる</p> <p>③看護専門職者として、科学的・論理的思考に基づく観察力・判断力・問題解決能力を身につけることができる</p> <p>④看護専門職者として他職種連携ができ、地域社会の発展に貢献できる能力を身につけることができる</p> <p>⑤看護専門職者として探究心を持ち、社会の変化にともなう看護の発展に寄与できる継続的自己学習能力を身につけることができる</p> <p>⑥看護専門職者としてグローバルな視野を持ち、国際社会の看護や保健医療福祉に貢献できる基礎的な能力を身につけることができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p>
<p>（概要）松山看護学部のカリキュラムは、前述した教育目的・教育目標に則り、ディプロマポリシー達成のために1年次から3年次前学期までは、看護職者として必要な基礎科目、専門基礎科目、および専門科目を講義や演習・実習で学ぶ。3年次後学期から4年次前学期までは臨地・臨床実習として、看護の現場において、受持ち患者を中心に実践的な学習を行う。なお、実践的な学習は、入学後早期（8月）に1週間の実習（基礎看護学実習Ⅰ）を行い、実践現場における看護の基礎的な知識・技術・態度を修得する。さらに、1年次の後学期において、対象や療養の場の多様性に対応できるように「地域・在宅看護学実習Ⅰ」を取り入れ、愛媛県内の松山市圏域（都市的地域）と伊方・久万 高原町圏域（中山間・高齢化地域）の両地域を比較し、健康・不健康を問わず、人々が住み続けられる町づくりや医療体制は何かを学ぶ。また、松山看護学部のカリキュラムの特色として、1年前期から倫理（生命倫理、看護倫理Ⅰ）を必修科目とし、人の生老病死について考える機会を設け、2年生では、それを演習（生と死のケア演習）として共有し、3年次後期および4年次前期には看護研究、4年次後期は倫理（看護倫理Ⅱ）を設定して、人間が生きること、老いること、病むこと、および死を迎えることについて考究する。さらに、看護師基本コースのほか、保健師コース（選択）と4つの選択強化プログラム（小児看護、がん看護、認知症看護、在宅・終末期看護）を配置する。人材育成の方針は、以下の通りである。</p> <p>①看護師国家試験受験資格取得を目的とする看護師課程を基本とする</p> <p>②保健師国家試験受験資格を取得する保健師課程を設ける</p> <p>③看護師課程におけるキャリア形成の基礎力を強化するプログラムとして、自由に選択できる小児看護、がん看護、認知症看護、在宅・終末期看護の4つの選択強化プログラムを設ける</p> <p>④グローバルな視野をもって国際社会に貢献できる国際看護学領域を設ける</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p>
<p>（概要）生命とその尊厳を守り、あらゆる人々を最適な健康状態へと導く看護サービスを追求する豊かな人間愛と倫理観に富み、地域の保健・医療・福祉の発展に寄与できる看護人材の育成をめざし、次のような学生を求める。</p> <p>①人々の健康に関心があり、人と関わることが好きな人</p> <p>②他者への感謝と相手の気持ちを考え、尊重できる人</p> <p>③自らの課題を発見し、解決に向け主体的に行動できる人</p> <p>④看護職者を目指す熱意のある人</p> <p>上記4つの要件を満たすために、規則正しく健康的な生活習慣を身に付け、正課外もしくは、学外のボランティア活動や地域諸活動への積極的な関心と社会貢献への意欲を持つ者を求める。</p>

学部等名 総合心理学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))
<p>（概要）総合心理学部の教育研究活動は、「養成する人材像」に沿った人材を輩出しているしながら、地域社会への貢献を目的とするものである。このための教育研究目的には3つの柱がある。1つ目は、私たち人間が地球環境を構成する一生物であるという自覚と理解に基づいて、人間の心について広い視野で考察する姿勢を育成すること。2つ目は、心理学に関する幅広い知識を有し、社会の中でそれを伝達できる技術を有し、その考察を深めていく意欲を育成すること。3つ目は、心理学の中で自らが選択した特定の分野については、より深い理解と知識を有し、そのデータ収集、解析、および論理的な解釈といった方法論を身につけ、新たな知を創出していくことである。各学科の具体的な目的は以下のとおりである。</p> <p>(1)総合心理学科の目的</p> <p>心理学は、非常に広範囲の分野により構成される学問である。例えば、感覚・知覚心理学、学習心理学、認知心理学、人格心理学、発達心理学、社会心理学、生理心理学、臨床心理学、教育心理学、産業心理学、健康心理学等さらには認知科学、発達科学、進化心理学、脳科学といった分野も関連する。総合心理学科では、こうした多様な心理学分野を幅広く修めることで得られる知の体系を総合心理学と位置付ける。さらに、こうした知を整理し、吟味し、深める技術を身につけ、さらにその知を広く社会に伝え、あるいはその知により社会の多様な問題を解決することの出来る人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2)総合犯罪心理学科の目的</p> <p>犯罪を、個人内、個人間、集団内、および集団間から国家の間まで、さらには、現実空間からサイバー空間まで、さまざまな規模・空間スケールで生じる葛藤の負の帰結として俯瞰的にとらえ、このような罪を犯すところの進化・発達から被害者の支援と加害者の更生、諸問題の予防・解決・支援に必要な知識、および技術を身につけ、犯罪心理学関連の専門職・研究職のほか、安全な社会の構築を担当する地方自治体の行政職員、および民間企業職員等として、安全な社会づくりの中核を担う材を養成することを目的とする。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))
<p>（概要）人間環境学を基盤として、総合的な心理学の知識を備え、さらに、選択した専門分野に関するより深い知識と方法論を備えた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。各学科の具体的な卒業要件は、以下のとおりである。</p> <p>(1)総合心理学科</p> <p>①人間は地球環境を構成する一生物であるという自覚と理解に基づいて、人間の心について考える姿勢を有し、持続可能性社会へ向けた貢献ができること</p> <p>②心理学に関する幅広い知識を有し、その考察を深める意欲を有し、社会の中で自らの知識を他者に伝える技術を有すること</p> <p>③心理学の中に自らが選択したより深い理解と知識のある分野を有し、そのデータ収集、解析、そして論理的解釈に関する方法論を身につけ、社会と自身のためにこれを活用する姿勢と技術を有すること</p> <p>(2)総合犯罪心理学科</p> <p>①人間は、地球環境を構成する一生物であるという自覚と理解に基づいて、人間の心について考える姿勢を有し、持続可能性社会でという統合的な時間軸の中で総合的に理解し、犯罪を切り口に現代社会に向けた貢献ができること</p> <p>②心理学および犯罪心理学に関する幅広い知識を有し、その考察を深める意欲を有し、社会の中で自らの知見を他者に伝える技術を有すること</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))

(概要) 総合心理学部の「ディプロマポリシー」および「養成人材像」に沿って総合心理学部のカリキュラムポリシーを定める。各学科の具体的なカリキュラムポリシーは以下のとおりである。

(1) 総合心理学科

- ① 人間環境学を土台としつつ、入学時から心理学/臨床心理学を体系的かつ網羅的に学べるカリキュラムとする（心理学概論科目/臨床心理学概論科目）
- ② 基幹となる心理学概論科目、臨床心理学概論科目の内容をさらに深め、理解を助けるために、心理学講読科目が伴走する
- ③ 現代の心理学を支える心理統計法、実験計画法、調査計画法、臨床領域研究法といったスキルについて、3年間かけて段階的に技術取得できるカリキュラムとする（心理学リサーチスキル科目）
- ④ 総合心理学の視点を身につけるための多様な選択科目を用意する（心理学フロンティア科目）
- ⑤ 各科目での学習目的の達成に関する成績評価基準を明確にすることで、総合心理学部の養成人材像に沿った教育実践を提供する将来役に立つ公認心理師や臨床心理士といった心の専門家になるために必要な科目を提供する（心理学エキスパート科目）
- ⑥ 提供される全科目について、1コマごとにシラバスを用意することで、1コマ水準での学習目的と習得すべき内容が明示されることにより、科目の全体の学びの中に各コマを位置づけながら自覚的に学べる教育を実現する。さらには、科目間の関連性についても可視化されたカリキュラムを提供する
- ⑦ 各科目での学習目的の達成に関する成績評価基準を明確にすることで、総合心理学部の要請人材像に沿った教育実践を提供する

(2) 総合犯罪心理学科

- ① 人間環境学を土台として、心について自然科学的にも人文科学的にも総合的に学んでいくための基盤教養について初年度を中心として獲得した上で、心理学の基礎的な知識と技術を習得しながら、犯罪心理学を総合的に学ぶことをスタートできるカリキュラムとする
- ② 現代の心理学として存在している心理学分野を網羅する基盤科目と、現代社会の諸問題と連動する多様な「高度専門科目Ⅰ（総合犯罪心理系）」および「高度専門科目Ⅱ（総合心理系）」を提供することで、心理学を総合的に学ぶことができるカリキュラムとする
- ③ 心と社会の問題を規模・スケール軸（個人内・個人間・社会・国家・サイバー空間）と時間軸（罪の起源や発生・犯罪予防・犯罪の発生や捜査・支援・更生）の2軸から扱うことのできる総合犯罪心理学科の科目を提供する。犯罪心理学の学びの基礎となる基盤専門科目において現代社会が抱える問題を取り上げ、且つ、その解決策を学ぶことのできる高度専門科目を提供することで、総合的に且つ実践的に犯罪心理学を学ぶことができるカリキュラムとする。
- ④ 現代の心理学を支える心理統計法、実験計画法、調査計画法、臨床領域研究法といったスキルや犯罪心理学に特化した研究方法や犯罪の予防・被害者支援・更生方法について、4年間をかけて継続的に技術取得できるカリキュラムとする
- ⑤ 提供される全科目について、1コマごとにシラバスを用意することで、1コマ水準での学習目的と習得すべき内容が明示されることにより、科目の全体の学びの中に各コマを位置づけながら自覚的に学べる教育を実現する。さらには、科目間の関連性についても可視化されたカリキュラムを提供する
- ⑥ 各科目での学習目的の達成に関する成績評価基準を明確にすることで、総合心理学部科の設置の養成人材像に沿った教育実践を提供する

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公開
(https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))

<p>(概要)</p> <p>(1)総合心理学部のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに沿って、アドミッションポリシーを定める。各学科の具体的なアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①総合心理学部における教育研究活動に取り組むための前提として、高等学校等において修得されるべき基礎的な能力を身につけていること ②本学の理念である「人間環境学」について、持続可能性社会への貢献のために興味関心があり、学ぶ意欲を有していること ③人間の心の特性について、自然科学的にも、人文科学的にも、幅広く学ぶことに興味関心があり、その成果を社会と自分の将来のために活用したい意欲を有すること ④心理学を総合的に学ぶことで、自分の専門分野を見出し、確立していくことに意欲を有しており、その成果を社会と自分の将来のために活用したい意欲を有していること <p>(2)総合犯罪心理学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ①総合犯罪心理学科における教育研究活動に取り組むための前提として、高等学校等において修得されるべき基礎的な能力を身につけていること ②本学の理念である「人間環境学」について、持続可能性社会への貢献のために興味関心があり、学ぶ意欲を有していること ③人間の心の特性について、自然科学的にも、人文科学的にも、幅広く学ぶことに興味関心があり、その成果を社会と自分の将来のために活用したい意欲を有すること ④犯罪を切り口に心と社会の問題を幅広く学ぶことに興味関心があり、学ぶ意欲を有していること ⑤犯罪心理学を総合的に学ぶことで、専門的な知識と技術を身に付け、その成果を社会の安心・安全と自分の将来のために活用したい意欲を有していること
--

<p>学部等名 総合環境学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p>
<p>(概要)</p> <p>(1)フィールド自然学科</p> <p>フィールド自然学科では、自然共生社会の実現に向け、次の考えに基づいてフィールドにおける生態系やその人間との接点についての教育研究を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自然環境や生態系の理解には、その複雑および不確実性故に、現地において直接、実践的に、知識や技能の修得を積み重ねていくことが不可欠であることから、多様なフィールドにおけるそれぞれの生態系を対象とした実習・演習を重視し、自然環境のメカニズムの理解、および諸課題を解決するための能力を養成する ②人間社会は、生態系サービスによって支えられていることを踏まえ、自然環境へ大きな負荷をかけない一次産業の在り方や、自然と人間の生活とのバランスのとり方を踏まえた行動変革やその提案を行うための知識や技能を修得する <p>(2)環境情報学科</p> <p>SDGs および、持続可能社会の理念を踏まえたうえで、環境配慮の基準である GREENSOFT Model に準拠したソフトウェア開発技術とデータサイエンス知識を用いて、人間と環境をめぐる諸問題の解決に貢献できる能力を育成することを教育研究上の目的とする。具体的には、以下三つの能力の修得をはかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人間を取り囲む環境の持続とデジタル技術に支えられた産業社会の発展とを総合的に捉える「総合環境学」の視点に立ち、自然環境、社会環境、経済環境等の諸問題に学問的、科学的にアプローチするための基礎知識を修得する ②環境配慮の基準である GREENSOFT Model に準拠したソフトウェア開発技術を修得する 具体的には、ソフトウェアの開発段階における環境負荷、および開発コストの軽減、使用段階における適切な利用者配慮、およびエネルギー消費の軽減を推進するソフトウェア開発技術を修得する ③自然環境、社会環境、経済環境等の諸問題に対して、観測された環境データを適切な

<p>形でデータベースに蓄積し、そこに統計学等のデータサイエンスを適用することで合理的な解決策を導き出すための知識を修得する</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p>
<p>(概要)</p> <p>(1) フィールド自然学科</p> <p>フィールド自然学科は、総合環境学部のディプロマ・ポリシーおよび、本学科の人材養成像「フィールドでの学びを通じて、多様な動物や自然と、人間との関わりに関する専門知識を有し、SDGs (Sustainable Development Goals) の達成に必須である自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材」に基づき、卒業要件を満たし、以下の能力を備えた学生に対して学位を授与する</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自然に関する幅広い基礎知識を有しており、陸域・水域の動物あるいは農学・水産学・微生物学のいずれかに関する専門的知識を有する ② 人間社会やデータ解析に関する幅広い基礎知識を有する ③ 自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案ができる ④ フィールドにおける自然環境調査を計画し実行する能力を有している <p>(2) 環境情報学科</p> <p>環境情報学科は、総合環境学部のディプロマ・ポリシーおよび、「SDGs (Sustainable Development Goals) 、および持続可能社会 (sustainable society) の理念にもとづき、人間を取り囲む自然環境と、デジタル技術に支えられた社会環境との関係を総合的に理解できるとともに、新たなソフトウェアの提案・開発および、環境データの分析を通じて、人間と環境とをめぐる諸問題に積極的に関与し、その解決に貢献できる人材」という本学科の人材養成像に基づき、卒業要件を満たすことで以下の能力を備えた学生に学位を授与する</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 産業発展と環境保護について多角的な視野を有するとともに、両者の調和に向けた提言を行い、社会や組織を啓発することができる ② 事物や事象をデータにもとづいて合理的に捉え、評価できるとともに、その知見を社会発展や産業振興に応用することができる ③ 実社会のニーズを包括的に捉え、多くの利用者に役立つソフトウェア製品を構想、発案し、社会生活の改善に貢献することができる ④ 環境保護や労働負荷に配慮しながらソフトウェア製品を開発する専門知識を有し、持続可能社会の実現に貢献することができる
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p>
<p>(概要)</p> <p>(1) フィールド自然学科</p> <p>フィールド自然学科では、生物・群集・生態系がかたちづくる自然に関する専門知識と、一次産業からデータ解析におよぶ基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の持続的発展と自然環境保全とのバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成する。本学科のカリキュラムは、陸域フィールド科目群、水域フィールド科目群、そして農業フィールド科目群の三つのカテゴリーに大きく分けられ、それら全体を包括し連結する枠組みとしてフィールド自然学の学問的体系がある。このように、フィールド自然学共通の学術基盤と解析手法を得るのに必要な科目と、専攻するカテゴリーの科目群を修得させることで、自然と人間との関わりを鳥瞰的に見渡すことができる教養、フィールドでの観察や実験から得られたデータを解析する技術、さらに個々のカテゴリーに特化した専門知識を修得させる。</p> <p>フィールド自然学科では、先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけた人材を養成するための教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のように設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自然に関する幅広い基礎知識とともに、陸域・水域の動物あるいは農学・水産学・微生物

<p>学のいずれかに関する専門知識を身につけるため、フィールド自然学の科目群を陸域フィールド、水域フィールド、農業フィールドの三つのカテゴリーに分割配置する</p> <p>②得られた情報をまとめて解析を実行し的確な結論を導くための基礎知識を身につけるため、環境データ解析科目を配置する</p> <p>③柔軟な思考力と幅広い素養、ならびに人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案ができる能力を身につけるため、諸課題を総合的にとらえ、社会で活躍するための基礎力を修得する学部共通科目を配置する</p> <p>④広い視野をもち、異分野に関する知識を理解するため、学部共通科目として複数分野からなる科目群を配置する</p> <p>(2)環境情報学科</p> <p>環境情報学科は、ソフトウェア技術の活用を通して持続可能社会の実現、産業発展と環境保護の調和に貢献できる人材を育成する。この目的を果たすため教育課程には、一般教養科目群の他、「環境理解を深める科目群」（「SDGs 概論」、「環境データの可視化技法」等）、「ソフトウェア技術を探究する科目群」（環境プログラミング科目、環境データベース科目、サステナブル・ソフトウェア論科目、Web 環境システム開発科目等）、「データサイエンス技術を探究する科目群」（「環境情報活用論」、「環境統計学概論」等）、「卒業研究科目群」（「卒業研究Ⅰ」から「卒業研究Ⅳ」）の四つの専門科目群が含まれる。「環境理解を深める科目群」は、総合環境学部の共通科目であり、持続可能社会および、環境保護、環境理解に関する基礎知識を教授する。「ソフトウェア技術を探究する科目群」は教育課程の中核をなし、持続可能社会および、環境保護の推し進める高度ソフトウェア技術を教授する。「データサイエンス技術を探究する科目群」は環境データの分析手法を教授する。さらに、「卒業研究科目群」はソフトウェア技術を応用し、持続可能社会の実現や環境問題の解決に資するソフトウェア製品の開発方法を教授する。詳細については以下の通りである。</p> <p>①一般教養科目群では、外国語と人文科学、社会科学分野の他に、「データサイエンス技術を探究する科目群」の予備知識として「数学」を配置する</p> <p>②総合環境学部の共通科目として、持続可能社会および、環境保護の意義を理解し、データを通して環境を理解するための基礎知識を教授する「環境理解を深める科目群」を配置する</p> <p>③教育課程の中核をなす「ソフトウェア技術を探究する科目群」は、先端的なソフトウェア製品を生産するための4つの技術領域（環境プログラミング技術、環境データベース技術、Web 環境システム開発技術、サステナブル・ソフトウェア論）を網羅し、技術修得の徹底をはかるため、これを15科目78単位分の必修科目と4科目10単位分の選択科目によって構成する</p> <p>④記述統計学・推測統計学によって環境データを分析する手法、およびPython 言語によるプログラムによって環境データの分析を実行する手法を教授する「データサイエンス技術を探究する科目群」を配置する</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p>
<p>(概要)</p> <p>(1)フィールド自然学科</p> <p>人間環境大学総合環境学部の学位授与の方針に基づいて、既存の学問分野に捉われない総合環境学を修め、広範な見識によって即戦力として社会貢献ができる人材を養成する。そのために、フィールド自然学科では、広義の自然学（ナチュラルヒストリー）を踏まえた自然環境の保全やその持続可能な利用について関心があり、フィールドにおいて培った知識や技能をその実現に役立てる意欲を持つ人を求める。フィールド自然学科で教育を受けるにあたっては、生態系や環境問題を理解する力が必要となるため、生物学を始めとする高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学習に必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性をもち、他者と協働して共に学ぶ意欲を備えた人を、多様な選抜制度により受け入れる。</p> <p>①自然全般に対する興味とともに、自然環境の仕組みやその保全、もしくはその持続可</p>

能な利用に関心がある人

- ②フィールドの現場で培った自然環境に係る知識と技能を、持続可能な社会の実現に役立てる意欲を持つ人
- ③生物学を始めとする高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性をもち、他者と協働して共に学ぶ意欲を備えた人

(2)環境情報学科

環境情報学科は、ソフトウェア技術の活用を通して産業発展と環境保護の調和をはかることを教育研究上の目的とする。その教育課程は環境理解とソフトウェア技術を中心に開することから、持続可能社会や環境保護に興味関心をもつ者、もしくは、世の中に普及するソフトウェア製品やソフトウェアによって動作する電子機器、ソフトウェア開発やソフトウェア技術に関わる仕事等に興味関心をもつ者を広く入学者として受け入れたい。

- ①持続可能社会や環境保護を重視する考え方や社会活動に興味関心がある人
- ②SNS アプリやメールアプリ、ゲームアプリ、ワープロソフト等のソフトウェア製品の利用や開発に興味関心がある人
- ③アプリによる電子決済サービスやオンラインショッピングサービス、動画配信サービス等の利用や開発に興味関心がある人
- ④ソフトウェアによって動作する電子機器（パソコン、スマートフォン、家庭用ゲーム機、自動車、電車、航空機等）の利用や開発に興味関心がある人
- ⑤ソフトウェア技術を活用し、持続可能社会の実現や環境保護等の社会課題に取り組むことに興味関心がある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
心理学部	—	7人	6人	4人	1人	人	18人
環境科学部	—	7人	6人	5人	3人	人	21人
看護学部		5人	7人	10人	10人	1人	33人
松山看護学部		10人	0人	5人	4人	2人	21人
総合心理学部		7人	4人	6人	人	人	17人
総合環境学部		8人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
人			133人				133人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info.html)					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間環境学部	-人	-人	-%	-人	14人	-%	-人	-人
心理学部	150人	166人	111.0%	600人	644人	107.3%	0人	0人
環境科学部	100人	128人	128.0%	400人	462人	115.5%	0人	0人
看護学部	95人	113人	118.9%	380人	425人	111.8%	0人	0人
松山看護学部	80人	63人	78.7%	320人	259人	80.9%	0人	0人
総合心理学部	130人	131人	100.7%	470人	440人	93.6%	0人	0人
総合環境学部	100人	129人	129.0%	200人	216人	108.0%	0人	0人
合計	655人	730人	111.4%	2370人	2446人	103.2%	0人	0人
(備考) 人間環境学部は募集停止のため、合計に加えていません。 総合心理学部総合犯罪心理学科ならびに総合環境学部は、完成年度を迎えておりませんので、今年度の収容定員で計上。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間環境学部	16人 (100%)	0人 (0%)	13人 (81.3%)	3人 (18.7%)
心理学部	138人 (100%)	9人 (6.5%)	126人 (91.3%)	3人 (2.2%)
環境科学部	99人 (100%)	8人 (8.1%)	91人 (91.9%)	0人 (0%)
看護学部	103人 (100%)	2人 (1.9%)	99人 (96.1%)	2人 (1.9%)
松山看護学部	68人 (100%)	1人 (1.5%)	66人 (97%)	1人 (1.5%)
総合心理学部	65人 (100%)	15人 (23.1%)	49人 (75.4%)	1人 (1.5%)
合計	489人 (100%)	35人 (7.2%)	444人 (90.8%)	10人 (2.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>全学の教学を統括する教学マネジメント委員会において、シラバスの様式を検討し、コマシラバス（各コマ毎に詳細化されたシラバス）として統一の様式を整えた。また、コマシラバス作成上の注意点を専任教員に対し伝えるため、説明会を実施している。非常勤講師には、留意点を記載した作成要領を送付し作成を依頼している。</p> <p>また、提出されたシラバスはカリキュラム責任者等、第三者により記載内容を確認する体制をとっている。</p> <p>今年度の主な記載項目は、下記の通りである。</p> <p>区分、科目コード、学年・期、科目名、単位数、授業形態、必修・選択、学習時間、前提とする科目、展開科目、関連資格、担当教員名、ディプロマ・ポリシーとの関係、カリキュラム・ポリシーとの関係、カリキュラム全体の中でのこの科目の位置づけ、科目の目</p>

的、到達目標、科目の概要、科目のキーワード、授業の展開方法、オフィスアワー、履修判定指標、評価方法、教科書、参考文献、実験・実習・教材費
 また上記に加え、各コマ毎に以下の記載項目がある。
 主題、科目の中での位置付け、コマ主題細目、細目レベル、キーワード、コマの展開方法、復習・予習課題、教材・教具
 授業計画（シラバス）の公表時期は、4月の開講に合わせて行い、履修登録時に確認が行えるように配慮している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
 コマシラバスにより“履修判定指標”が授業毎に定められており、その授業で修得すべき具体的内容を履修登録時から学生に対し明確に示している。
 なお、コマシラバスについてはカリキュラム責任者等による第三者チェックが行われており、「履修判定指標」が定期試験などの評価対象となる内容と一致しているかを学生へアンケート調査を行っている。
 また、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連について、シラバスに掲載することにより、授業科目と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連性の意識づけている。
 上記の方針の他、卒業要件に定める修得単位数を踏まえ、教授会で卒業可否を判定する。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
心理学科	心理学科	126 単位	有・無	単位
	犯罪心理学科	126 単位	有・無	単位
環境科学部	フィールド生態学科	126 単位	有・無	単位
	環境バイオインクス学科	126 単位	有・無	単位
人間環境学部	心理学科	126 単位	有・無	単位
	環境科学科	126 単位	有・無	単位
看護学部	看護学科(新・旧)	128 単位	有・無	単位
松山看護学部	看護学科(新)	130 単位	有・無	単位
	看護学科(旧)	128 単位	有・無	単位
総合心理学部	総合心理学科	126 単位	有・無	単位
	総合犯罪心理学科	126 単位	有・無	単位
総合環境学部	フィールド自然学科	124 単位	有・無	単位
	環境情報学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
心理学部	心理学科	700,000 円	200,000 円	480,000 円	
	犯罪心理学科	700,000 円	200,000 円	480,000 円	
環境科学部	フィールド生態学科	700,000 円	200,000 円	530,000 円	
	環境データサイエンス学科	700,000 円	200,000 円	530,000 円	
看護学部	看護学科	950,000 円	200,000 円	645,000 円	
松山看護学部	看護学科	950,000 円	250,000 円	550,000 円	
総合心理学部	総合心理学科	700,000 円	200,000 円	380,000 円	
	総合犯罪心理学科	700,000 円	200,000 円	380,000 円	
総合環境学部	フィールド自然学科	700,000 円	200,000 円	430,000 円	
	環境情報学科	700,000 円	200,000 円	430,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>【人間環境・心理・環境科学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの顔が見える大学 少人数教育を中心にして、学生一人ひとりの適性にあったカリキュラムを選択可能となっている。 基礎ゼミナール (1 年次) 10～15 名程度のクラス編成で、大学で必要とするスキルの養成を行っている。レポートの書き方、プレゼンテーションの方法など具体的に指導している。 メンター制度 1 年次は基礎ゼミ担当の教員がメンターとして学生の履修指導や生活面でのサポートをしている。なお、2 年次は学科教員がメンターとなる。 演習 (3 年次、4 年次) 3 年次では、卒業論文・卒業研究にむけての準備作業が始まる。 4 年次は3 年間で学んだことを卒業論文や卒業研究としてまとめていくこととなる。 新入生ウェルカムキャンプ 入学式後、合宿を通して先生や先輩からアドバイスを受けながら、4 年間の履修計画を具体的に作成する。 <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験の 100% 合格を目指して、「国家試験対策室」を設置するほか、集中講義、模擬試験など万全の体制で試験をサポートします。また、「看護師 + α」のスキルを身につける「選択強化プログラム」制度 (2・3 年次選択) を用意するほか、「保健師」「養護教諭一種」の資格取得も目指せるコース (2 年次選択) も用意しています。 1 年次前期に開講される「基礎ゼミナール」では、これから大学で勉強していく上で必要となる基礎的な技能や、知的探求心を鍛錬することを目的にしています。また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育成します。 学生が有意義で充実した学生生活を送れるよう、専任教員による「アドバイザー制度」を実施しています。学習・進路面の相談のみでなく学生生活の相談など、4 年間を通じて手厚い支援を受けることができます。学生は、アドバイザー教員が設定したオフィスアワーを利用して気軽に相談をすることができます。

【松山看護学部】

・資格取得への支援

国家試験の合格率 100%を目指して、「国家試験対策委員会」を設置しているほか、集中講義、模擬試験などで万全の体制を組織し国家試験のサポートを行っている。また、「看護師資格+α」のスキルを身につける「4つの選択強化プログラム」制度（小児看護、がん看護、認知症看護、在宅終末期看護）や「保健師」の資格取得も目指せるコースを用意している。

・基礎ゼミナール

1年次前期に開講される「基礎ゼミナール」は、これから大学で勉強していくうえで必要なアカデミックスキルの修得や知的探究心を鍛錬することを目的としている。また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を高めている。

・学習・生活をサポートする「メンター制度」

学生が有意義で充実した大学生活を送れるよう、専任教員による「メンター制度」を実施している。学習・進路面はもちろん、学生生活の相談など4年間を通して手厚い支援を受けることができる。メンター教員以外にも、教員が示したオフィスアワーを利用して気軽に相談をすることができる。

【総合心理学部】

・入学前の読書会について

年内入試で合格した学生を対象に、心理学及び読書への興味を高め、本の読み方スキルを身につけることを目的として、心理学関連領域の図書の読書会を行っている。

・メンター制度について

学生全員にメンター教員を割り当て、学生一人一人の修学や生活の状況にきめ細かく対応し、学生生活を支援している。

・新入生歓迎合宿（親睦会）

新入生を対象に、履修相談を行うとともに教員や新入生同士との交流・親睦を深める機会を設けることで、学生生活を円滑にスタートできるようサポートしている。

・アンケートの実施

年に1回「学生生活アンケート」を実施し、学生の学習に対する姿勢や生活状況について把握し、学生支援に役立てている。

・プロゼミについて

教員が行っている研究プロジェクトや地域貢献活動に学生たちも関わり、本格的な心理学活動に触れることで、座学では身に付かない体験知を得られる機会を提供している。プロゼミへの参加により、教員との多くの交流や相談の機会を提供している。

【総合環境学部】

・メンター制度について

学生全員にメンター教員を割り当て、学生一人一人の修学や生活の状況にきめ細かく対応し、学生生活を支援している。

・新入生歓迎合宿（親睦会）

新入生を対象に、履修相談を行うとともに教員や新入生同士との交流・親睦を深める機会を設けることで、学生生活を円滑にスタートできるようサポートしている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

【心理学部、環境科学部、人間環境学部】

・1年次から卒業後の進路を見据えた授業の実施

1年次では必修科目として「キャリアデザイン」を配置し、卒業後の進路について必要な力を身につける科目を配置している。

【看護学部】

・本学では、入学間もない1年次前期より「医療キャリアの基礎」として単位化されたキャリアデザイン科目があります。ここでキャリア形成の在り方と医療専門職業人としてのマナー

について学ぶほか、具体的な実践看護の活動を通じて主体的に自身のキャリア設計をしています。また、「キャリアデザイン支援・資料室」を設置し、看護管理職を経験した専任教員が常駐するなど、きめ細やかなフォロー体制を整備しています。

【松山看護学部】

- ・1年次より「医療キャリアの基礎」として単位化されたキャリアデザインに取り組んでいる。ここでは、キャリア形成の在り方や医療専門職を経験した教員からそれぞれの専門領域について学ぶほか、具体的な実践看護の活動を通じ、主体的にキャリア設計を描いていく。また、本科目において、個別にポートフォリオの作成や意義を周知し、メンターとの面談でポートフォリオを活用することで、キャリア・ストーリーを描いていけるよう支援している。そして、インターンシップへの参加推奨や、就職先の相談、就職後の支援など、きめ細やかなフォロー体制の整備も行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

【人間環境・心理・環境科学部】

- ・メンター教員による学生生活に対する相談
大学生活で困ったこと、友人関係などで問題が発生したときには、メンター教員と相談することができるようにしている。
- ・専門のカウンセラーによる相談
臨床心理士によるカウンセリングを受けることも可能となっている。なお、カウンセラーの相談は月曜日から金曜日に設定している。
- ・健康管理
年に1回全学生を対象に定期健康診断を実施し、健康チェックを行い、病気の早期発見、早期治療ができるようサポートしている。また、医務室に保健師が常駐（授業開講期間中）するようにして、急な体調不良等に対応できるようにしている。
- ・ハラスメント相談窓口
学生および教職員のために、ハラスメント相談窓口を設置し、キャンパスにおける各種ハラスメントに対してプライバシーに配慮しつつ、相談者の立場に立って、共に解決策を見出せるよう体制を整えている。

【看護学部】

- ・健康管理
年に1回健康診断を実施し、学生の健康チェックを行うとともに、病院実習に備えて、入学時に感染症抗体検査を実施し、抗体価が基準に満たない場合は、予防接種の指導を行っている。さらに、学校保険として日本看護学校協議会共済会の総合保障制度に全員が加入し、実習先や学校管理下（登下校を含む）での傷害事故、賠償事故および臨地実習での感染事故にも対応できるようにしている。これらを通して、医療に関わる専門職として主体的に自身の健康管理ができることを目指している。また、保健室では、学生が健康を維持・増進できるように必要な知識を提供し、定期健康診断を実施して病気の早期発見、早期治療ができるようにしている。
- ・ハラスメント相談窓口
大学生活で困ったこと、友人関係などで問題が生じた際には、学生相談担当の教員が相談に対応しています。また、ハラスメント問題専用の窓口を設け、対応できるようにしている。

【松山看護学部】

- ・メンター教員による学生生活に対する相談
大学生活で困ったこと、友人関係、学習に関することについて、メンター教員と相談できる体制をとっている。
- ・専門のカウンセラーによる相談
大学生活では、授業についていけない、友人とうまく付き合えない、家族との問題がある、将来に不安がある、身体の悩み、精神的に不安定になるなど、いろいろな問題が生じ

ることが想定されることから、学関係者以外に話を聞いてほしい、大相談したいと思ったときには、学生相談室を利用することができるように周知をしている。また、ハラスメント委員会を設置し、キャンパスハラスメント等の防止や救済に関する対策を講じている。

・健康管理

年に1回健康診断を実施し学生の健康チェックを行うことで、病気の早期発見、早期治療ができるよう配慮している。なおかつ医療に関わる専門職として、自発的に自身の健康管理ができることを目指している。1年次の健康診断では、病院実習に備えて感染症抗体検査を実施し、抗体価が基準に満たない場合には予防接種の指導を行い、感染症予防に努めている。

【総合心理学部、総合環境学部】

・教員による支援について

メンター教員が中心となり、学生一人ひとりの大学生活や友人関係などの悩みについて相談に応じ、一緒に解決を目指している。学生委員会がその情報を集約し、秘密保持を厳守しつつ、教員間で共有する体制を構築し、全員体制で支援を行っている。

・健康診断について

年に1回全学生を対象に、定期健康診断を実施している。学生の健康チェックを行い、病気の早期発見、早期治療ができるようサポートしている。

・学生の心身の健康に関わる講話の実施

警察講話（薬物乱用防止、消費生活、生活安全）、デートDV・性暴力予防啓発講座等、それぞれ年1回実施している。

・ハラスメント相談窓口について

ハラスメント相談窓口を設置し、キャンパスにおけるハラスメント（セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメントやその他のハラスメント）に対応している。相談は相談者の立場にたち、プライバシーを厳守して、ともに解決策を見出せる体制を整えている。

・学生相談室について

学内に設置している学生相談室を利用することで、月に2日～3日、専門のカウンセラー（公認心理師・臨床心理士）によるカウンセリングを受けることができる。

・要配慮学生への対応について

要配慮の申し出があった学生に対しては、学生委員会で具体的な支援方法を検討し、配慮事項については守秘義務を厳守しつつ授業担当教員等に情報共有を行い、遺漏なく対応を行う体制を取っている。また当該学生に対して小まめに声かけを行い、配慮が十分か確認している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info.html)

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F123310106513
学校名 (〇〇大学 等)	人間環境大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人河原学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生 (内数) ※家計急変による者を除く。		590人 (315) 人	580人 (337) 人	613人 (374) 人
内 訳	第Ⅰ区分	153人	144人	
	(うち多子世帯)	(34人)	(19人)	
	第Ⅱ区分	61人	66人	
	(うち多子世帯)	(12人)	(12人)	
	第Ⅲ区分	52人	56人	
	(うち多子世帯)	(12人)	(12人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	17人	20人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	67人	63人	
	区分外 (多子世帯)	240人	231人	
家計急変による 支援対象者 (年間)				-人 (0) 人
合計 (年間)				614人 (374) 人
(備考) ・後半期の第Ⅳ区分 (理工農) のうち、1名は現在、税の更正申請中 ・家計急変者の受給期間は令和7年9月～令和8年3月まで				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 <small>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当）</small>	一人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	13人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	11人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	42人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	42人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。